# ホールド(hold)としての出稼ぎ

The re-emplacement through seasonal migrant work

「青森県の人生」調査より

作道 信介
(弘前大学人文学部)

09.7.17

## 悲劇—生活に組み込まれた出稼ぎ

- 2005年冬、青森県津軽地域は2年続きの大雪にみまわれた。2006年1月8日、弘前市に隣接するH市で除雪作業中の重機が自宅裏で雪に埋もれていた男性の遺体を発見した。
- 「(警察によると)この男性は先月30日からいなくなっていた。同居の父母が8日、近所の人に家の周りの除雪を頼み、息子の遺体を見つけた。父母は息子が出稼ぎに行ったと思っていたという」。

児童相談所資料：昭和49年

## 非行の孫の養育を忌避して出稼ぎ

- 祖父をはじめ、その兄弟など多人数家族の農家。養育相談。「食事も満足にしていない。普段は不潔，垢だらけ，髪は肩まで伸びている。実父は通年出稼ぎで殆ど留守だった。その後、ケガをきっかけに離婚。本児を祖父母が引き取る。
- 祖父は本児の問題のため，<u>面倒を見るのを嫌がり出稼ぎに出たいと云っている。</u>
- 母は今後実家に養育は頼めない。本児のために一年くらい在宅し世話をしようと思っている。

## 『裁判員』(2006、最高裁判所)

- 裁判員の仕組みと意義を説明した最高裁制作のPR映画。
- 放火事件。表津軽郡(架空)から出稼ぎに来た男が宿舎のアパートの自室にライターで火をつけた。仕事上のミスで、自暴自棄になったため。裁判員たち(村上弘明)は放火という重罪に執行猶予をつけるかどうかでなやむ。
- 「農業では食えないので仕方なく行く」「家族の情愛」

09.7.17

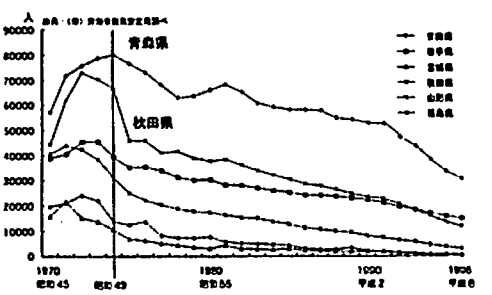
## 出稼ぎのベースライン化

- 出稼ぎが暮らしや人生設計へ「あたりまえのこと」として組み込まれている
- 「出稼ぎがそのときどきの生計の手段として用いられているだけではなく、人生の将来設計において頼りにされたり、危機における頼みの綱と考えられている」(作道、2008)
- 実際にいくかどうかは別として、「出稼ぎがある」という期待がある
- 地域内はもちろん、マスメディアにおいても

09.7.17

—出稼ぎ王国・青森—

## 県別出稼ぎ者数




09.7.17

## 青森県の人口動態（山下、2008）

- 遅延した過疎
  - 第1次人口減少期（1960-70前半）にほとんど減少はなく一貫して増加、減少が始まるのは第2次人口減少期（1980後半−90年代）
- 人口構成
  - 大正末から昭和一桁世代の残留
  - それ以降は県外へ流出
    - 集団就職、県外就職（中学・高校の進路指導）
  - 故郷への帰還と結びついた出稼ぎの影響

09.7.17

## 発想

- 出稼ぎは「生活のベースライン」
  - 災害など緊急時、生活設計、ライフスタイル
- 戻ってくるから、「出稼ぎ」
  - 戻らないと「挙家離村」・「移住」
- 「出稼ぎ」は過疎ディフェンス
  - 一時期、人口流出を抑制した可能性
  - 地元志向、故郷といった意識
- ホールド（hold）研究
  - 「"地域"をつくり人を留め置く力」
  - プッシュ・プルのなかで、津軽地域に人びとを「ひきとめおく力」が発生した過程

## 出稼ぎの潜在的効用

- 従来の説明
  - プッシュ・プル（push-pull）
    - 経済的要因による匿名の労働力の移動
  - 「出稼ぎ＝必要悪」官説
    - 経済的要因「暮らせないから仕方なしに行く」
- ホールド（hold）としての出稼ぎ
  - 匿名の労働力にしない仕組み
  - 地元とトウキョウの往復がつくる故郷
  - 「地域を形成し人を留め置く力」（作道、2008）

09.7.17

## 出稼ぎ王国・青森県

- S49年以来、全国1位
- 出稼ぎ者の長期的供給源
- S30年代まで北海道、その後関東へ
- 建設業（土木作業）中心
- 縁故就労、低い職安経由率
- 高齢化
  - 戦後復興・成長期の出稼ぎ者が継続的に就労

09.7.17

## 「青森の人生」調査

- 目的
  - 出稼ぎがホールドとして機能した可能性を青森県各地で実証すること
- 方法
  - 生活史（人生の語り）をインタビュー
  - どのように出稼ぎがベースライン化したか
- 対象
  - 1992年、2002年、旧平賀町A集落、老人会中心、38名、経験者男25名（1916(T5)-1955(s30)生）
  - 2009年5月・6月。大間町にてスノーボール式。21名内経験者男12名（1920（T9）−1955（S30）生）

### 大正末から昭和一桁前半生まれの人生

| No. | 生年 | 出生 | 年齢 | 生活 | 学歴 | 最初の仕事 | 職業 | | | | 職業歴 | | 出稼ぎ | 出身の出稼ぎ | 現在生活 | 主な仕事 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 青森 | 北海道 | 関東 | 他 | 出稼ぎ | 通勤 | | | | |
| 1 | 大正 | 1916 | 93 | 農業（1947迄） | 高等 | 農業 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | 30 | 兼業 | 農業・家業 | 100%（1.7） |
| 2 | 大正 | 1919 | 90 | 農業（1952）→農業 | 中学 | 中学 | ● | ● | ● | ○ | ○ | ● | 27 | 兼業 | 家業 | 100%（3.0） |
| 3 | 大正 | 1918 | 91 | 農業（不詳） | 中学 | 家業 | ● | ● | ● | ○ | ● | ● | – | – | 家業 | 100%（3.3） |
| 4 | 大正 | 1923 | 86 | 農業（1960迄） | – | 中学 | ● | ○ | ● | ○ | ○ | ● | 40 | 中学 | – | – |
| 5 | 大正 | 1925 | 84 | 農業（ドカタ） | 中学 | 中学 | ○ | ● | ● | ○ | ○ | ○ | 15 | 中学 | – | – |
| 6 | 大正 | 1923 | 86 | 農業（1952）→農業 | 高等 | 中学 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 30 | 高等 | 農業 | 100%（3.7） |
| 7 | 大正 | 1926 | 73 | 農業・ムラの仕事 | 高等 | 家業 | ● | ● | ● | ○ | ● | ● | – | – | 農業 | 100%（3.3） |
| 8 | 大正 | 1925 | 84 | 農業（1968迄） | 高等 | 中学 | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ● | 45 | 中学 | 農業・家業 | 100%（3.7） |
| 9 | 大正 | 1925 | 84 | 農業（45迄） | – | 中学 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 30 | 中学 | 農業 | – |
| 10 | 大正 | 1921 | 88 | 農業（71迄） | 高等 | 家業 | ● | ● | ● | ○ | ○ | ● | 7 | 中学 | – | |
| 11 | 大正 | 1925 | 79 | 農業（2-3年） | 高等 | 家業 | ● | ● | ● | ○ | ○ | ● | 30 | 中学 | 農業 | （50%）（3.7） |
| 12 | 昭和 | 1929 | 72 | 農業 | – | 中学 | ● | ● | ● | ○ | ○ | ● | 30 | 中学 | 農業 | |
| 13 | 昭和 | 1929 | 72 | 農業（45迄）→農業 | 高等 | 中学 | ○ | ● | ● | ● | ○ | ● | 34 | 中学 | 農業・家業 | |
| 14 | 昭和 | 1930 | 71 | 出稼ぎ・日雇い | 高等 | 農業 | ○ | ● | ● | △ | ○ | ○ | 40 | 中学 | 家業 | 100%（1.7） |

09.7.17

## 事例1「人に使われた」人生

- 大正X年生。借子、兵役。県内で稼働。戦後、自動車を購入、りんごの行商
- 昭和3X年ごろ、「知り合い」(地元)が工事運転手の仕事、東京で10年ほど稼働。
- 退職後、娘婿の紹介で、東京で運転手、冬場は地元でタクシー。以後4X年まで、東京と地元の往復、失業保険。家を新築
- 定年退職後、昭和5X年から「この辺の知ってる人間」で土木工事へ。7X歳で引退。

## 事例2-1:覚えていた人の紹介

- 大正1X年、長男。卒業後すぐ13歳で、へ借子。近所の人の紹介で、北千島の工場。職業指導所で、南洋で「ドカタ」。抑留、帰国。
- 集落の人の紹介で、東京へ戦後復興の「ドカタ」。「覚えていた」人に声かけられて、埼玉の道路工事など。出稼ぎは(子どもができて)冬場のみに。60歳で、農業は長男に任せて、親戚の会社で、通年出稼ぎ
- 田畑は2反から1町4反に。

## 事例2-2:ライフサイクルで分業

- S28年生。同胞2名の長男。
- 地元の農業高校卒業後、地元の先達の紹介で大手水産会社の船で北洋へ、母船での冷凍加工に10年、ほぼ通年でつとめる。下船後、父の畑(りんご)を受け継ぎ、友人とともに「土木」「造園」の冬場の出稼ぎを続ける。
- 弟も船にのり、その後、同部落内で婿養子に出て、一緒に出稼ぎと農業に従事

## <職場を変える理由(1)>
## 「村の仲間ばりいってりゃいいけど」

- <職場を変わるのは給料のためですか?>
- まあ、給料。あどほら、ムラの仲間ばりいってりゃいいけど、あちこちから入ってきてるから、ほら。<そうすると、しっくりいかない?>うん、そうそう、まあ、ほとんど、それとかそんなもんだね。

## <職場を変える理由(2)>
## 「そのまま行けるかっこになってる」

- 昔はまあ15人も同じ部屋に寝てるのがいまは2,3人とか、条件いいとこ探し、まあ、探して‥みんな何回かいってるとこへまた行くようなかっこうだから。
- <これからも続けるのですか>うん、こっちにも仕事あればいいんだけどもね。毎年、仲間でいっしょに行ってるから別になんともない、すんなりそのままこういけるようなかっこになってて(笑)。

## 事例3:専業を決断、環境整備に尽力

- 大正1X年生まれ。雑貨屋とムシロ集荷業を営む父のもと、長男。学校卒業後、家業を手伝う。軍隊、復員。
- 昭和2X年(2X歳)、結婚。以後専業農家。昭和3X年(3X歳)共同防除組合の初代組合長。同時に生産組合にも。土地改良区の理事、部落長、老人会会長など地元の要職。昭和5X年頃、長男に譲り、家業の手伝い
- 農地は2町ほどに買い足す
- 息子2人は「経営的見地から」出稼ぎに出した

<A集落調査から>

## 出稼ぎ安定層の存在

- 縁故就労・継続就労
  - 故郷の人間関係(「おぼえていた人」)で就労
  - 事業主になって同郷の人を募集
  - 「そのままいけるようになっている」
- 人生設計への組み込み
  - 家族内分業

09.7.17

## 考察

- 出稼ぎ安定層の存在
  - ベースライン化・縁故就労＝地元のネットワーク
- 出稼ぎ
  - 経済的動機だけではない
    - 仕事のおもしろさ、トウキョウの魅力
  - "故郷"の人間関係のなかでの仕事
    - 稼働先・地元の往復が"故郷"をつくる
  - 人間をたんなる匿名の労働力にしない仕組み
- ＊出稼ぎ文化
  - 派遣労働を出稼ぎとよぶ若年層

09.7.17

## 青森の出稼ぎ

- 近代化された出稼ぎ　ex 職安経由
  - 経済合理性(「よい賃金の仕事」)
  - 自律的な個人(「適性のある仕事」)
    - ハケン的な匿名の労働力(代替可能性)
- 青森の出稼ぎ　ex　縁故就労
  - 経済的合理性・匿名の労働力を標榜
  - 共同体の一員・共同体の形成に寄与
- ハイブリッドの可能性
  - 近代化の諸力を人間化(翻訳し)共同体をつくる

09.7.17

出稼ぎのベースライン化

高度成長期のプッシュ・プル要因
労働力不足・生業の季節性

縁故就労による継続稼働
漁業出稼ぎの伝統

故郷意識の形成
「故郷は遠くにありて」

制度的な下支え
失業保険・「安全で明るい出稼ぎ」運動

「出稼ぎ＝必要悪」言説の定着

09.7.17 ホールド

↓

人口保持・高い地元志向・ライフスタイル

## 非近代としての出稼ぎ

- 近代化ex.
  - (1)経済合理性・個人主義
  - (2)共同体・集団主義
  - 共同体・集団主義→経済合理性・個人主義
- 出稼ぎ
  - (1)・(2)が人間的に結びつけられた
  - 一方向に収束しない「非近代」という生き方
  - 両極に純化しない、楽観主義か？

09.7.17

## 出稼ぎ、近代化への対応

- 出稼ぎ
  - 前近代的・近代的であるハイブリッド
  - ただし、よせあつめたのではない
  - 家族との暮らしや人生の中に織り込まれ
  - 地域を形成する
- 近代化の見方の転換
  - 多様な近代のありかた、は当然として
  - 近代化の力を人間化する努力の重要性
  - 非近代という可能性

09.7.17